

マヌカハニーで インフルエンザ対策 高齢社会の感染予防に提案

シクロケム

さまざまな素材の機能性向上研究を行っているシクロケム(東京都中央区)は、ニュージールランドに自生するマヌカを起源とするハチミツ「マヌカハニー」に、新たに抗インフルエンザウイルス作用が発見されたことを受けて、提案強化を図る。

高齢社会で感染リスクの高まっている日本で、マヌカハニーが予防に有効な機能性素材になるとして研究開発や啓蒙に努めていく構えだ。

同社は、ニュージール

ランドのマヌカヘルス社と提携し、関連会社であるコサチが国内向けに「MGOマヌカハニー」を販売。さらに、マヌカハニーの利用を高めた「サイクロパワーMGOマヌカハニー」など、同社が取り扱う環状オリゴ糖「シクロデキストリン(CD)」の包接によって相乗効果を発揮させた製品の開発を行っている。

カハニーの抗インフルエンザウイルス作用は、長崎大学研究グループによって報告されたもので、抗ウイルス薬である「リレンザ」「タミフル」と、マヌカハニーの併用が相乗作用を示すとした結果が出されている。

マヌカハニー(3・13mg/ml)を併用することによって、リレンザとタミフルの使用量を100分の1近くまで減らしても同等の抗ウイルス効果が得られることが、研究結果によって判明した。

新たに発見されたマヌ